

眼科

1. スタッフ (2024年4月1日現在)

科 長 (教 授)	蕪城 俊克
副 科 長 (准 教 授)	高橋 秀徳
外来医長 (講 師 (兼))	伊野田 悟
病棟医長 (助 教)	長岡 広祐
講 師	渡辺 芽里
助 教	佐藤 彩
助 教	坂本 晋一
助 教	恩田 昌紀
助 教	粕谷 友香
病院助教	案浦加奈子
病院助教	守屋 穰
病院助教	野口久美子
病院助教	橋本 悠人
病院助教	吉田 花
シニアレジデント	9名

2. 診療科の特徴

当院では、大学病院という3次医療機関であるため、地域の医療施設と密接に連携体制をとり、急性期の治療を中心に診療を行っている。特に、専門外来（角膜・緑内障、ぶどう膜炎、網膜・硝子体、黄斑、ロービジョン、弱視・斜視）を充実すべくスタッフ一同、常に最新の高度医療の導入に努力している。

診断面では、通常の眼科診療に必要な機器を完備しており、さらに光干渉断層計 (OCT)、ICG眼底撮影 (HRA II)、広角眼底撮影装置、前眼部三次元画像解析装置、等々最新の診断機器を備えている。

治療面では、中央手術室に眼科専用手術室を2室設け、それぞれに最新の超音波水晶体乳化吸引術装置 (インフィニティ)、硝子体手術装置 (コンステレーション) を設置し対応している。また、加齢黄斑変性に対しては抗VEGF療法を積極的に行っている。

当院では、電子カルテシステムが導入されている。眼科においては、さらに眼科サブシステムを用いて、画像データや手術スケジュールの管理、各種病態の説明に使用しており、効率がよく、医療安全の面からも有益なシステムを構築している。

・認定施設

- 日本眼科学会専門医制度認定施設
- 日本眼科学会専門医制度研修プログラム施行施設

・専門医

日本眼科学会専門医認定医	蕪城 俊克
	高橋 秀徳
	佐藤 彩
	渡辺 芽里
	坂本 晋一
	伊野田 悟
	粕谷 友香
	恩田 昌紀
	長岡 広祐
	案浦加奈子
	守屋 穰
	野口久美子
	橋本 悠人
	吉田 花

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介割合

新来患者数	2,503人
再来患者数	35,884人
紹介割合	97.1%

2) 入院患者数 (病名別)

病 名	人数
白内障	1,203
緑内障、高眼圧症	271
網膜剥離	263
網膜前膜	198
糖尿病網膜症	111
黄斑円孔	77
角膜疾患	28
斜視	35
甲状腺眼症	17
視神経炎	13
急性網膜壊死	1
原田病	5
眼球破裂	9
その他	274
合 計	2,505

3-1) 手術術式別件数

入院手術	人数
白内障手術 (白内障手術のみ)	1,377
多焦点レンズ挿入術	24
経強膜網膜剥離手術	32
硝子体手術 (白内障同時手術含む)	551

緑内障手術（白内障・硝子体同時手術含む）	280
斜視手術（小児・全麻）	41
角膜移植手術（白内障同時手術含む）	7
眼球内容除去術・眼球摘出術	12
眼瞼内反症手術・眼瞼下垂症手術	14
その他	332
小計	2,670
外来手術	人数
涙道手術	91
眼瞼手術（内反症、下垂症）	11
眼瞼手術（その他）	12
結膜（翼状片）	43
結膜（その他）	34
眼窩	3
角膜手術	4
斜視手術	100
虹彩・毛様体・隅角手術	39
後発白内障手術	99
硝子体注入・吸引術	3
小計	439
合計	3,109

4. 2024年の目標・事業計画等

大学病院の眼科の使命として、教育・研究・臨床の3つを行うことが要求されている。

教育は、学生教育のみならず、専門医を育てる必要がある。最新の医療技術を安全確実に提供できる眼科専門医を養成する。

医学や医療の発展のために、単に日常診療のみに流されることのないよう、常に新知見を得る努力を怠らないように心がける。

導入されている最新の医療機器を有効利用し、重症患者に対する質の高い医療を提供する。

3-2) 術後合併症数

4) 化学療法症例・数

該当なし

5) 放射線療法症例・数

5例

6) その他の療法（免疫療法）症例・数

ベーチェット病 13例

原田病 9例

7) 悪性腫瘍の疾患別・臨床進行期別治療成績

該当なし

8) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

該当なし

9) 主な処置・検査

蛍光眼底造影、超音波画像診断装置、
前眼部及び眼底光干渉断層計（OCT）
超広角走査レーザー検眼鏡（OPTOS）
スペキュラーマイクロスコープなど

10) カンファランス症例

クリニカルカンファランス

毎週木曜日午後5時30分より